

これみ  
週刊「考歴民」 No.10

2021.5.31. 交野古文化同好会

考古・歴史・民俗の頭文字を取って考歴民（これみ）と名付けました。

交野のいわれ

この地方は、昔から「かたの」と言われていました。

「かたの」の「の」とは、もちろん「野」、すなわち平坦な低地のことであり「かた」は「漏」で、水が差したり引いたりする所という意味です。

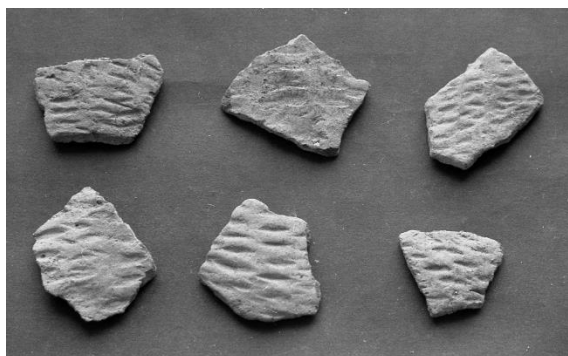
「交野」の名称は、平安前期の倭名（和名）類聚抄に「加多乃」と読み、その名称の起源については、丘陵と平地が交互に存すると言ひ、また、淀川流域の低地から見ると丘陵上の平地とも見えるので「肩野」と称されたとも言うが、いずれも明らかではない。

交野の歴史的経過

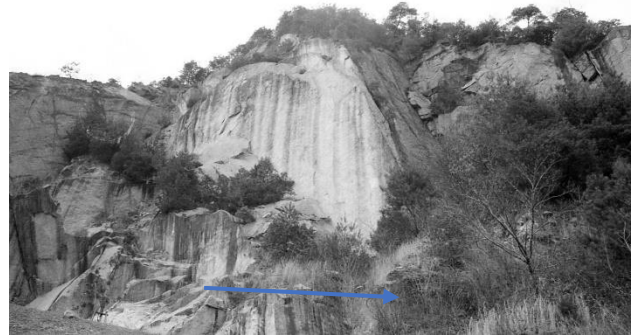
交野に人が住み始めたのは、今からおよそ2万年前と言われ、これらの古い歴史を過去の遺跡に縄文（神宮寺遺跡）・弥生（寺南山・星田坊龍遺跡）時代の遺跡が多く残る。



旧石器 ↑ 縄文式土器 ↓



「先代旧事本記」十巻「天神本記」の中で物部の祖である饒速日（ニギハヤヒ）は天孫ニギニの実兄とされ天孫降臨に先立って天磐船に乗って河内哮ヶ峰に天降ったと書かれている。



縄文時代に始まり饒速日の末裔である肩野物部氏がこの地を支配し伊香色雄命（いかしこおのみこと）が、天野川流域に住みつぎ農耕文化を広めたほか、部民を使役して古墳を築かせた。



森一号墳・雷塚古墳

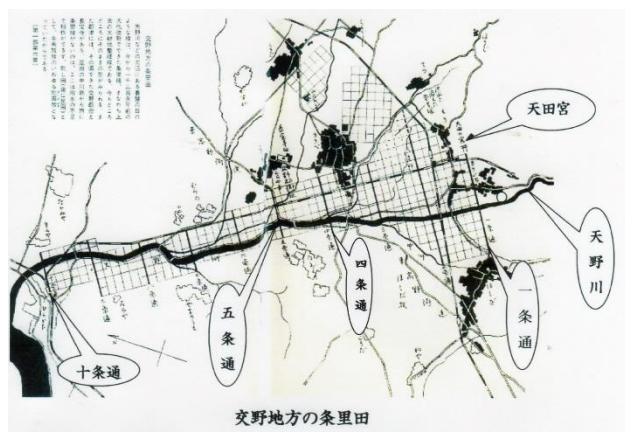
一方交野忌寸（かたのいみき）の祖、漢人庄員は、その一族を率いて渡来し、倉治の山の麓に住みつぎ、機織の技術を起こし繁栄した。



機物神社（後方の山・交野山）

奈良朝時代に施行された大化改新令による班田収授法によって、当地方にも条里制がしかれ、今もその姿を残している。

私市を条里一条とし、枚方十条までの区域を残している。



平安時代、天野川の水辺や丘陵地帯は狩猟観光に適し、天皇、皇族、宮廷人がたびたびこの地方を訪れた。

その後、室町時代に入ると応仁の乱が起り、それ以降、交野も戦乱の渦中に巻き込まれたが、織田信長、豊臣秀吉により一応天下が平定され、1600年関ヶ原の戦後、農民は米麦や河内木綿の手工業などでささやかながらも泰平の生活を続けた。



明治維新以後、河内県(明治2年1月20日)、堺県(明治2年8月2日)と管轄が変転したが、明治14年大阪府管下となった。明治22年市制町村が公布され交野村(私部・倉治・郡津)、磐船村(私市・森・寺・傍示)、星田村ができた。



妙音池  
現在、妙音池の上に星田会館が建つ



昭和14年、交野村と磐船村が合併し交野町となった。

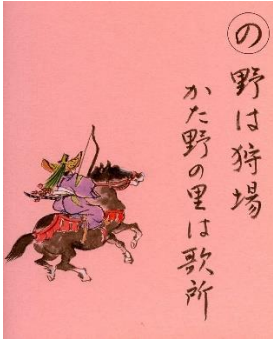
その後、昭和30年、町村合併促進法の施行により、交野町と星田村が合併し新しい交野町となった。

そして昭和46年11月3日、大阪府下31番目の市制、交野市が誕生した(人口36,952人)。



参考資料：わがまちふるさとかたの地名を訪ねて  
お願い  
交野アルバムを添付しました。皆様の中で古い写真のお持ちの方、ご協力よろしくお願いたします。

交野アルバム



交野郷土史かるたより



山添家 ↑

北田家(長屋門・駕籠) ↓



かご池 (現在関西スーパー)



機物神社鳥居が南側にあった (免除川から撮影)



久御山線開通前 (消防署・まだ四中がない)



手前、現在カインズと臨港製鉄



JR河内磐船駅 (手前ロータリー)



スタコ坂付近・現在の標識 砂子 (スタコ) 坂